

「住まい力」アップのためのさっぽろ福祉機器体験展 I N 北区  
開催報告書

概要

名称 : 「住まい力」アップのためのさっぽろ福祉機器体験展 I N 北区  
開催日 : 体験展示 平成 19 年 11 月 17 日 ( 土 ) 10 : 00 ~ 16 : 00  
市民セミナー 平成 19 年 11 月 17 日 ( 土 ) 10 : 30 ~ 12 : 00  
専門家向けセミナー 平成 19 年 11 月 16 日 ( 金 ) 18 : 30 ~ 20 : 30  
会場 : 北区民センターホール、研修室 ( 札幌市北区北 2 5 条西 6 丁目 )  
主催 : 特定非営利活動法人さっぽろ住まいのプラットフォーム  
後援 : 北海道/札幌市/ ( 独 ) 住宅金融支援機構北海道支店/北区社会福祉協議会/  
北区第一地域包括支援センター/北区第二地域包括支援センター/  
札幌市介護支援専門員連絡協議会/ ( 社 ) 北海道建築士会札幌支部/  
( 社 ) 北海道まちづくり促進協会/ ( 社 ) 北海道マンション管理組合連合会/  
( 社 ) 北海道社会福祉士会/NPO 法人高齢者支援センター/  
NPO 法人シーズネット/NPO 法人北海道マンション管理士会/  
NPO 法人ユニバーサルデザイン推進協会/NPO 法人北海道環境推進センター/  
バリアフリー・デザイン協議会/住まいの安心プラチナネット/  
在宅支援技術者連絡協議会道央支部  
協賛 : アースサポート株式会社札幌営業所/アロン化成株式会社札幌営業所  
イズミ株式会社/株式会社 I N A X 北海道支社/  
株式会社カワムラサイクル横浜サービスセンター/  
株式会社酒井組 住まい工房 てすりん/シーホネンス株式会社札幌営業所  
マイクロソフト株式会社/新陽パソコン倶楽部/T O T O 株式会社札幌支社  
トステム株式会社北海道支社/ナカ工業株式会社札幌支店  
株式会社田村義肢製作所/マツ六株式会社札幌支店/  
株式会社モリトー札幌営業所/矢崎化工株式会社北海道支店/  
レンタコムウェル札幌支店/ワイエム工業株式会社札幌営業所  
趣旨 : 地域市民が身近に参加できる「体験型」UD (ユニバーサルデザイン) 展を通  
じ、用具知識だけでなく、選ぶ力・使う力も得てもらうことで住まう力を向上、  
自らが安心安全に暮らしていただく普及啓発の一助とする。  
また、同時に S S P F の相談・説明ブースを設け、並びに専門家向けセミナー  
を開催することで、各地域での S S P F に対する認知度を高め、相談機会の拡  
大を図るとともに、区等、地域密着のネットワーク強化を通じ、市民ニーズへの  
対応強化を目指す。  
参加人数 : 約 1 9 0 名

## 開催報告

### 展示会・体験展（展示スペース）



北区民センターホールでは、手摺、福祉機器、自助具・義肢装具の各展示を行いました。

各展示では参加者は資料とともに実物を見、触れることができ、例えば手摺展示では、身近な手摺にも様々な種類があること、用途に適した手摺の選び方などについて知る



ことができたと思います。また、福祉機器展示では、普段はあまり多くをみることのできない様々な種類の車椅子や介護ベットが並び、参加者がそれぞれの違いについてコーナースタッフに質問するといった光景も見られ、関心の高さを感じました。

ベッドサイドにつける移動用リフト体験では、実際に参加者がリフトに乗り、車椅子からベッドに移動する体験をされ、リフトの利便性を実感されていました。介助の軽減対策としての一つの方法である、との意見もありました。



## 展示会内イベント

### 訪問入浴デモンストレーション

展示会場内特設スペースでのデモンストレーションでは32名の方にご参加頂きました。

日頃なかなか見る事の少ない訪問入浴の実施は関心を呼び、多くの方が熱心に見入っていました。一部施設での入浴介助では寂しさを感じる事もありますが、デモを行った訪問入浴スタッフのてきぱきとした段取りの良さと、介護される人や家族への配慮がすばらし

く、できるだけ本人の身体的、精神的負担の少ない入浴サービスに、PFスタッフを含め、皆さん感心していました。

参加者からは、入浴介助は大変だが、思ったよりスムーズにできるといった感想を頂き、入浴機器やデモの様子の写真を撮ったり、質問をすることでいった光景がみられるなど、とても盛況でした。高齢の家族を抱えている人にとっては、デモンストラ



### 高齢者が楽しめるパソコン教室



マイクロソフト株式会社の楠原史子氏を迎え、シニアの方がパソコンライフを楽しむためのパソコン教室を行いました。年賀状やフォトアルバムの作り方など、すぐに活用できる内容について、楠原氏が30名の参加者に実際にパソコンに触れて頂きながら丁寧に操作の仕方などを講義していました。参加者は季節がら写真の整理や年賀状の作成に少しでも参考にしようと真剣に聞き入っていました。時間が少なかったのか、講義が終わってからでも質問が多く、なかなかパソコンのそばを離れない人もいたほどでした。高齢者にとっては分りにくいパソコン操作や言葉の意味、楽しみ方について学ぶ良い機会になったと思います。

高齢者もパソコンを使う人が増え楽しむ時代になりました。参加者にはこれを機にパソコンに挑戦し、楽しんでほしいと思います。

### 医療の目から見た足裏診断！スイスコンフォート



自分の足に合ったインソール（靴の中敷）を作ってくれるとのイベントだったこともあり、とても関心が高く、開場と共に多くの方が足裏診断を受けていました。

高齢者や障害を持っている人にとって、自分の足で歩ける事は、大げさに言えばその人の人生に関わることでもあると感じています。参加者からは「最近では高齢者に適した靴もいろいろあるが、本当に合っているのかは疑問だ」という感想があがるなど、自分らしく自由に歩くために靴の中敷の重要性を実感した人も多く、珍しさや体験測定したい人で人気がありました。

## 市民セミナー

テーマ：「家庭内事故防止で安心・安全な暮らし」

講師：山本明恵氏

（SSPF理事長（社）北海道建築士会札幌支部）

参加者：26名

最近の家庭内事故の多発を受けて開催された本セミナーでは、まず講師の山本氏より、数年前から高齢者の住まいが変化し、札幌市においては高齢者のみや、単身（一人暮らし）世帯の増加が見られること。人生第二のライフステージをどこで、誰と、どのように迎えるのかを考えたとき、在宅で暮らしたい希望が多い中、思わぬ事故にあうこともある、というお話がありました。



その後、高齢期を前に準備しておくことについて、家庭内事故はどこで、どのように起こるのか、その原因と対応策を日常の生活から分かりやすいご説明を頂きました。

また、山本氏は「北海道の住宅の特徴（積雪、寒冷地）を考えると、自分らしく暮らす住まいの見直しが必要」と述べられ、部分的解消と暮らし全体の基本的考え方についてアドバイスされました。

加齢による身体的、精神的な低下を知り、安心で安全な住まいづくりをする。住まいという器（ハード）と地域住民とのコミュニケーションや福祉的サービスを上手に取り入れて（ソフト）より豊かな暮らしに結びつける、という山本氏の提案に、真駒内から参加のご夫婦をはじめ、参加者は最後まで興味深く聴き入っていました。

## スキルアップセミナー（専門家セミナー）

テーマ：実践「住宅改修」～建築職からみた福祉～“まずは手摺取付から”

講師：東道尾氏（一級建築士事務所「自然」）

参加者：28名



介護、福祉の専門家の方を対象に建築の基本を理解し、介護保険に係わる住宅改修の実務に活かすことを目的として開催された本セミナーでは、まず、開催介護保険の住宅改修で一番多い手摺の取り付けについて、講師の東氏が最新の情報をお話されました。次いで、使用者本人と介護者や家族にとって取り付ける位置や材質、取り付け方法が異なること、失敗しないための手摺の選択や住宅の構造についてのお話と、より安全な手摺の取付方法と工事費のめやすについてアドバイスがありました。

その後、東氏が実際に関わった改修事例を基にした様々なケースの分かりやすい説明。また、手摺実物を手にとって材質、触感を感じてもらったり、実際に手摺を設置

する際の見積書を作成してもらい、費用がどのくらいかかるのかを理解する、といった実践に基づいた講義もあり、参加者からは実例や実践など、具体的で今後の参考になったとの感想を頂きました。高齢者や障害を持った人の住宅改修はその人の今後の生活づくりに重要な役割があり、関係職種の協力や連携が大切で「手摺一本で暮らしは変わる」ことを学ぶ手助けとなったのではないかと思います。

#### 主催者総括

体験型であり、福祉機器をメインとした今回の福祉機器体験展はPFとしては初の試みでしたが、規模から考えると、会場のスペースがちょうど良く、展示物・セミナー等も充実した内容にできましたと思います。歩き回る、見て、触れる、体験できる今回のイベントはこれからも継続していき、地域住民の暮らしのヒントとしてPFならではの特徴づけもしたいと思いました。

一方、今後の課題としては、広報宣伝強化が挙げられます。

今回は一部新聞記事とチラシの手配り(区民センター、区役所、各団体)で市民の皆様へ広報を行いました。展示会(セミナーは除く)には約120名の参加と予想を下回る結果となりました。今回の参加者の感想から本企画への市民ニーズは高いと考えられることから、今後広報の方法等について検討していく必要があると考えます。

また、今後は福祉機器等だけ観点からではなく、市民ニーズを把握し、最近PF相談窓口に問い合わせの多い高齢者向け賃貸住宅のアパート情報を始め、現在本当に市民が安心安全で住み続けられるまちづくりのために何が必要な情報なのかを検討し、企画に活かさなければならぬと考えます。

また、相談コーナーでは当日の相談はありませんでした。一般市民セミナーは相談コーナーの設置する展示場の一角で行うなど、次回に向けた対応を検討する必要があると考えます。